

埼玉の くらしと 社会保障

2017年6月1日発行 第254号(毎月1回発行)
発行 埼玉県社会保障推進協議会
〒330-0064 さいたま市浦和区岸町7-12-8
自治労連会館1階
電話048-865-0473 fax048-865-0483
(ホームページは「埼玉社保協」と検索下さい)

望ましい国保のあり方を考え、声を上げていこう 国保学習会を開催

5月20日、埼玉会館にて国保学習会が開催され、約50人が参加しました。



第1部では、埼玉県国保医療課の迎主査より、国保の都道府県化に向けて埼玉県が作成している「国民健康保険運営方針」の原案と、国保事業費納付金と標準保険税額の第2回シミュレーションについて説明を受けました。

第2部では、神奈川社保協の佐々木前事務局長より、国保の都道府県化の問題点と社保協の今後の運動の報告について講義を受けました。佐々木前事務局長は、国保の都道府県化をマイナスにばかり捉えるのではなく、制度を改善する機会として捉え、都道府県が財政責任も負うことになるので、都道府県からも法定外繰入金を出させて保険税を軽減したり、保健事業を都道府県で統一して充実させたり、保険税の上限を取り払って応能負担を強化したり、短期証の期限を長くしたり、資格証明書の発行をさせないようにしたりといった改善案を指摘しました。また、国保財政の赤字は、市町村の法定外繰入金を「いい繰入金」と「悪い繰入金」に分け、「悪い繰入金」を除いて収支を算定するために「つくられた赤字」となっているものであり、繰入金を認めさせることで赤字ではなくなるということが指摘されました。国の新たな財政措置も予定されており、現在シミュレーションで示されている保険税額に一喜一憂せず、望ましい国保のあり方を考え、声を上げていくことが提起されました。

(医療生協さいたま本部 けんこう文化部
まちづくり推進課 小野 民外里)

「介護を利用できなくなる」の声を無視、 断固抗議！ 改悪介護保険関連法参院本会議で採決強行

一定所得以上の人の介護利用料を3割負担へ引き上げることなどを含む「地域包括ケアシステム強化のための介護保険法等の一部を改正する法律案」が、5月25日参議院厚生労働委員会で採決が強行され、26日の参議院本会議で自民、公明、維新各党などの賛成多数で可決・成立しました。共産、民進、希望の風(自由・社民)、沖縄の風は反対しました。

31本もの法律を一括法案としての審議が衆議院22時間、参議院16時間足らずの審議時間で、実態の検証もないまま強行されました。これには与党も気まぐらかったのか、「3割負担の引き上げまでに実態調査を行なう」など6項目の付帯決議を提案しました。

参議院厚労委で、共産党倉林明子議員は「介護人材不足対策も不十分、政府は月4万3千円増えたというが、厚労省のデータでは基本給で月1万3千円しか増えていない」と指摘、これには厚労省も認めざるを得ませんでした。民進党足立信也議員が介護医療院への移行にあたり診療報酬の扱いはどうなるのかと質問。民進党牧山ひろえ議員は介護医療院問題について、「平成23年度に改正があり平成28年度末に介護療養病床の廃止が始まったばかりで、介護医療院への転換はうまくいくのか」と指摘。塩崎厚生労働大臣は「患者の医療ニーズを十分把握できていなかった。介護医療院への移行状況調査に全力を挙げる」と答弁、介護医療院の中身も決まっていない中で法案提出されていたことが露呈しました。

「我が事・丸ごと地域共生社会」や財政的インセンティブによる要介護認定率の引下げ(モデルが和光市)を奨励する「自立支援の保険者機能強化」によって、自治体が強引に介護サービス取り上げる事態が懸念されます。

埼玉社保協は、不十分な審議で成立させた事に断固抗議するとともに、自治体要請キャラバンなどをつうじて利用者や事業の実態をまとめ、改悪阻止の取り組みを強化して決意を表明するものです。

共謀罪廃案にむけて最後まで頑張ろう 第8波、第9波国会行動埼玉デー



通常国会の衆議院本会議で、自民・公明・維新の三党による組織犯罪処罰法改正案、いわゆる共謀罪が強行可決された、5月19日を前後して、第8波(5/10)と第9波(5/24)の国会行動・埼玉デーが開催されました。今国会は、森友学園問題や南スーダンへの日報問題など、開会直後から政府・与党の問題が噴出する中、共謀罪法案を再度強行採決させました。そんな中での開催でしたので、全県各地から国会行動に駆けつけ、第8波には8団体93人(埼玉土建56人)、第9波には14団体103人(埼玉土建58人)が参加しました。

埼玉土建では、共謀罪法案が閣議決定された直後から、機関誌やDVDを使って仲間へ法案の危険性を知らせていきました。それと同時並行に仲間や家族、知人や友人へと署名の取り組みを4月から開始し、国会行動の中で国会議員へ届けていきました。今回の国会行動でも3万1317筆の署名を直接、国会議員やその秘書へ手渡してきました。

議員要請の中でも与党と野党の対応はわかれ、民進党や共産党の議員は、秘書の対応もありますが、しっかりと要請に耳を傾けてくれ、廃案にむけてがんばろうと激励をしてくれています。一方、自民党や公明党の議員については、「一般の人は大丈夫」「少し大げさでないか」「テロ対策は必要」など、要請を真摯に受け取る様子は見られません。毎回の国会集会に激励に参加してくれている、梅村さえ子衆議院議員(日本共産党)からは、「審議が参議院に移っても、野党が一致団結して廃案に向けてがんばるので、皆さんも地域で声をあげてほしい」と激励をうけ、埼玉土建では、宣伝行動や署名活動を広げ、廃案にむけて最後まで頑張っていきます。

(埼玉土建一般労働組合 肝付 賢司)

市民と野党の共闘で政治を変えていこう 憲法集会に5万5千人が結集！

5月3日、「施行70年 いいね！日本国憲法 平和といのちと人権を！ 5・3憲法集会」が開催され、5万5千人が東京臨海防災公園に集まりました。埼玉民医連・医療生協さいたまからは職員・生協組合員が約160人参加しました。

集会では、ファッション評論家のピーコさんや作家の落合恵子さんなどが発言し、憲法への思いや平和の大切さ、共謀罪法案への懸念などが語られました。連帯あいさつでは、民進党の蓮舫代表、日本共産党の志位和夫委員長、自由党の森ゆうこ参議院議員、社民党の吉田忠智党首、沖縄の風の伊波洋一参議院議員が市民と野党の共闘で政治を変えていくことをアピールしました。

韓国からのゲスト、朴槿恵退陣緊急国民行動の李泰鎬さんは、「私たちが主人である」、「人が優先だ」というスローガンは、国が違っても共通と述べ、日本の市民を応援しますとエールが送られました。

沖縄からのアピールでは、基地の県内移設に反対する県民会議の山城博治さんが発言し、勾留に対する全国からの当局への抗議のおかげで社会に出てくることのできたとお礼を述べ、新基地建設阻止のために、県民、市長、県知事とともに政府に抗していくと決意表明して連帯を呼びかけました。

集会後のデモ行進では、「戦争反対」、「憲法9条を守れ」、「辺野古に基地はつくらせない」、「共謀罪は廃案に」、「教育勅語の復活反対」、「安倍政権の暴走は許さない」などのコールで沿道の人たちにアピールしました。



(医療生協さいたま・埼玉民医連 保土田 毅)

社会保障解体やめて!! 憲法25条生かす政治の実現を 5・18共同集会に3500人



18日、東京・日比谷野外音楽堂に3500人が集い、憲法25条を守る共同集会が開かれました。埼玉県内からは、きょうされん、埼玉土建、障埼連、埼玉生連、医療生協さいたまなどから要員も含め600人以上が参加しました。司会進行は本田宏医師が行なうなど埼玉からの参加者は集会成功に大きく貢献しました！

集会途中からドシャ降りの雨に見舞われましたが「雨にも負けず、アベにも負けない」と集会後「共謀罪反対」と連日市民が座り込みを続ける国会にむけデモを行いました。

集会では、よびかけ人のひとり尾藤廣喜弁護士が基調報告で「格差と貧困が深刻化する今こそ生存権保障のため国の責任で社会保障の充実をすることが強く求められている」と指摘。医療・介護従事者、保育士、母親、生活保護利用者、障害者、高齢者らがそれぞれの立場から実態と人間らしく生きる権利を求めて訴えました。

参加者は「守れ！憲法25条」のプラカードでアピール。「声を出せないでいるあらゆる分野の人々と手をつなぎ、共同の輪を広げ、連帯のうねりを起こして、いのちと尊厳を大切に社会を私たちの力で実現させよう」と呼びかける集会アピールを採択しました。

第25回埼玉社会保障学校 開校のお知らせ

日時 9月3日(日) 10:00~16:30

会場 さいたま共済会館6F

- 第1講座 森永伊紀さん 全労連ヘルパーネット
 - 第2講座 金子 勝さん 慶応大学教授
 - 第3講座 中澤秀一さん 静岡県立短大准教授
- 参加費 4000円／お弁当1000円※ご注文下さい
参加申込書にてお申し込み下さい。

医師、看護師増員を！ 埼玉県医労連 春のナースウェーブ行動

5月14日、埼玉県医労連の2017年春のナースウェーブ行動が取り组まれました。午前中は、元日本医労連中央執行委員長の田中千恵子さんを講師に、「楽しくなければ看護じゃない！元気にはたらきつづけよう！」をテーマに学習会を行ないました。そして、午後からは浦和駅東口で「白衣の宣伝行動」を行ないました。

講演された田中さんは1973年に国立病院医療センターで長く勤務された日本医療連のレジエント。就職当時から看護師不足で稼働していない病室があり、電気のない病室を見た人から「国立病院なのになぜ患者を入れないのか」と言われたとか。透析室勤務の時は「お金がかかるから」と透析を家族が断ることがあったり辛いこともあり。意識がないと思っていた脳梗塞の患者さんに洗髪をしたら「気持ちいい」と言われて、驚いたり、楽しいことやうれしいこともありたくさんの経験をしました。そして労働組合があるからこそその事例として、ある介護の職場でセクハラ、パワハラ、マタハラが行なわれていて、妊婦であるにも関わらず、一人でお風呂介助をさせられることに。組合に相談したところ、組合の支援で裁判を行なって勝利し、その後組合員が増えることにつながりました。看護は素晴らしい仕事であり、おおくの国民から支持されているのだから、働き続けられる労働環境、職場づくりをしていきましょうと呼びかけられました。

午後からの駅頭宣伝では、約30分間で258筆の医師看護師増員の署名が集まりました。



核兵器も戦争もない平和な世界を子どもたちに!

埼玉母親大会・越谷母親大会を開催

5月7日、「平和な未来を子どもたちに手渡そう」と、全県各地から越谷サンシティに1,132人集い、第62回埼玉母親大会・第53回越谷母親大会を開催しました。

オープニング「青い空は合唱団」の歌声で始まり、記念講演は、「青い空は」作詞の小森香子さん、「青い空はあおいままで 子どもに伝えたい」テーマに、1930年に生まれた私が戦争っ子としてどう育ったかを戦争中の生々しい体験を話し、工場動員で集団チフスで死んだ友、「良子(よしこ)ちゃん」の詩を涙ぐみながら、「良子ちゃんは いまでも15歳」と、朗読しました。「なお いっそう戦争のムゴサを知り、絶対戦争はしてはいけないと心の底から思った」の感想が寄せられました。

分科会ではドキュメンタリー映画「いのちの森 高江」を上映し、辺野古キャンプシュワブゲート前 スタッフノ斎藤美紀子さんによる沖縄の話や、憲法カフェでは～安心してしゃべりたい～と、弁護士か

ら共謀罪「テロ等準備罪」の話をうけてしゃべり合う等、参加者は沖縄での国の仕打ち初めて知り、本当にひどい。増々安倍政権に対する怒りがつり、政治を変えようと思った。沖縄の方々などのつらく苦しい負の事実を知りました。

大会終了後、核兵器も戦争もない平和な世界を子どもたちに手渡すため、“生命(いのち)をのみだす母親は“生命を育て 生命を守ることをのみます”のスローガンをかかげ、戦争させない!「安保法制」今すぐ廃止!「共謀罪」は今すぐ廃案!「戦争する国」ごめんです!辺野古の海に新基地いらぬ!武力で平和は守れぬ!と、南越谷駅まで母親パレードをおこないました。

(埼玉母親大会連絡会母親通信2017.5.NO.1より抜粋)



2017年キャラバン コース表

キャラバン実施が今月開催と迫ってまいりました。

松伏町が日時とも変更になり、7月6日(木)10時～11時30分になりました。地域組織へ周知をお願いいたします。

日程	曜	コース	懇談時間	
			① 10時～11時30分	② 14時～15時30分
6月22日	木	1		熊谷市
6月23日	金	2	杉戸町	
6月27日	火	3	深谷市	
		4	川越市	川島町
		5	吉川市	
6月28日	水	6	久喜市	幸手市
		7	越谷市	三郷市
		8	さいたま市	蓮田市
		9		春日部市
6月29日	木	10	富士見市	ふじみ野市
		11	志木市	
		12	桶川市	北本市
		13	長瀨町	皆野町
		14	毛呂山町	越生町
6月30日	金	15	滑川町	嵐山町
		16	加須市	鴻巣市
		17	白岡市	宮代町
		18		八潮市
		19	日高市	飯能市

日程	曜	コース	懇談時間	
			① 10時～11時30分	② 14時～15時30分
7月4日	火	20	上里町	神川町
		21	吉見町	東松山市
		22	坂戸市	鶴ヶ島市
7月5日	水	23	小川町	東秩父村
		24	寄居町	横瀬町
		25		新座市
		26	本庄市	美里町
7月6日	木	27	ときがわ町	鳩山町
		28	草加市	
		29	入間市	狭山市
7月7日	金	30	上尾市	伊奈町
		31	羽生市	行田市
		32	秩父市	小鹿野町
		33	松伏町	
7月7日	金	34	朝霞市	和光市
		35	所沢市	三芳町
		36	蕨市	戸田市
		37	川口市	